◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇
いわて マナビィ マガジン
No.231 （令和３年度第16号） 2021.11.26
◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

★――――――――――――――――――――――――――――――――――――――★

季節は、「読書の秋」から「読書の冬」へ！
～いつでも読書のススメ～

★――――――――――――――――――――――――――――――――――――――★

今年の11月は、例年よりもかなり暖かく、ようやく18日に盛岡で初氷が観測されました。盛岡地方気象台によれば、1923年（大正12年）の統計開始以来最も遅く、昨年・平年よりも18日も遅れているとのことです。特に岩手県の内陸の地域は、秋が短く、秋物の洋服の売れ行きがあまり良くないという話も聞いたことがありますが、今年は、過ごしやすい秋の季節を長めに楽しむことができました。当センター周辺は、やや豪雪地帯ですので、このまま暖冬になれば・・・でも、スキー場周辺には雪が降ってほしい・・・などという願いでおりましたが、同気象台によれば、今冬は平年並みの寒さとなりそうとのことです。

さて、「読書の秋」も終盤となりましたが、皆様、読書に親しんでいますか！

読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくうえで欠くことのできないものであり、今までに出会わなかったさまざまな新しい世界とめぐり会うことにより、新たな自分をかたちづくる営みといえます。
（県ホームページＨＰ「第４次岩手県子どもの読書推進計画」より）

秋に限らず、ぜひ読書に親しんでいきたいものです！
今回は、読書についての情報をいくつか提供させていただきます。

１　読書の効果について

令和３年８月11日公表
独立行政法人国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター
子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究
～「読書離れ」の実態と、「読書好き」を育てるヒント～
より抜粋
↓↓↓↓↓
https://www.niye.go.jp/about/report_list/52449381061131aadbb53220210811093245.html

【主な調査結果】

結果①

「子どもの頃（小学校高学年、中学校、高校）の読書量が多い人は、そうでない人よりも意識・非認知能力や認知機能が高い傾向がある。」

○子どもの頃の読書量を整理すると、以下の４つの読み方に分類された。

・小中高少群：小中高を通して読書量が少ない。

・上昇群：小中高で緩やかに読書量が上昇している。

・低下群：小中高で読書量が低下している。

・小中高多群：小中高を通して読書量が多い

○各傾向と現在の意識・非認知能力との関係について検討した結果、子どもの頃の読書量が多い人は、それ以外の人に比べ、意識・非認知能力が高い傾向があった。

○各傾向と認知機能との関係について検討した結果、子どもの頃の読書量が多い人は、それ以外の人に比べ、認知機能が高い傾向があった。

※「非認知能力」とは

主に意欲、自信、忍耐、自立、自制、協調、共感などの私たちの心の部分である能力のことです。[数値化されない、人生を豊かにする力。]

※「認知機能（能力）」とは

理解（力）、言語（力）、計算（力）、記憶（力）、思考（力）等の人の知的機能（能力）を総称した概念です。[一般的には検査で測定できる機能（能力）のこと。]

結果②

「興味・関心にあわせた読書経験が多い人ほど、小中高を通した読書量が多い傾向にある。」

○「本を持ち歩いて読むこと」「地域の図書館で本を借りたこと」「ジャンルを問わず読むこと」「同じ本を繰り返し読むこと」「目次、前書き、解説など本文以外の部分も読むこと」「図書委員、子ども図書、読書コンシェルジュの活動をしたこと」「絵本を読んだこと」を多く経験することは、小中高を通した読書量の多さと関連していた。

○「１日に読むページを決めて読むこと」「著者がどのような人か理解してから読むこと」「学校や市の推薦図書を選ぶこと」を多く経験することは、小中高を通した読書量の少なさと関連していた。

○これらの項目は、自由な読書をかえって妨げてしまう可能性もあると考えられる。

結果③

「本（紙媒体）を読まなくなった人は、年代に関係なく増加している。」

○１ヶ月に読む本（紙媒体）の量を経年比較すると、「０冊」と回答した人の割合は、年代に関係なく、平成 25 年では 28.1%であったが、平成 30 年では 49.8%と約 20 ポイント増えている。

○特に、「０冊」と回答した割合が最も増えている年代は、20 代（25.1 ポ

イント増、52.3%）であり、平成 30 年で「０冊」と回答した割合が最も多い年代は、30 代（54.4%）である。

結果④
「一方で、携帯電話やスマートフォン、タブレットなどのスマートデバイスを用いて本を読む人の割合は増えている。」
○１ヶ月に読む電子書籍の量を経年比較すると、「１冊」以上と回答した割合は、平成 25 年では 8.5%であったが、平成 30 年では 19.7%と約 10 ポイント増えている。
○携帯電話、スマートフォン、タブレットを利用した１日あたりの読書時間を経年比較すると、年代に関係なく、15 分以上と回答した割合が増えている。

結果⑤
「読書のツールに関係なく、読書している人はしていない人よりも意識・非認知能力が高い傾向があるが、本（紙媒体）で読書している人の意識・非認知能力は最も高い傾向がある。」
○各傾向と現在の意識・非認知能力との関係について検討した結果、読書の使用ツールに関係なく読書をしている人は、読書をしていない傾向がある人に比べ、意識・非認知能力が高い傾向があった。
○現在の意識・非認知能力は、本（紙媒体）で読書している人が最も高い傾向があった。

２　県の子どもの読書推進について

第４次岩手県子どもの読書推進計画より抜粋
↓↓↓↓↓
http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/mamabinohondana/kodomonodokushokatudou.html

（１）本県の 子どもの読書活動 の現状
○子どもの「1か月間の読書冊数」や「読書者の割合」は 増加傾向にある。
○８割を超える児童生徒が「読書が楽しい」と感じており、多くの子どもが主体的に読書に取り組んでいる。
○学年が上がるにつれて読書離れが進む傾向にある 。
○スマートフォンの普及等、急速な情報環境の変化は、子どもの読書環境にも大きな影響を与えている。

（２）基本的な考え方
本県の現状、国の取組等を踏まえ、岩手の子どもが自主的に読書活動を行うことができるよう、次の基本的な考え方のもと、家庭、地域、学校等

における子どもの読書活動の推進、そのための条件整備と充実等に取り組む。

1　子どもが本に親しむ環境づくりの推進
2　家庭、地域、学校等が連携協力した取組の推進
3　子どもの読書への関心を高める取組の推進

（３）家庭、地域、学校等における子どもの読書活動の推進

【家庭の役割】
○子どもが読書に親しむきっかけを作るとともに、子どもの読書に対する興味や関心を引き出す
○一方的に読書を「させる」だけでなく、保護者も「ともに取り組む」

【家庭に期待される取組】
○家庭内に子どもが本を身近に感じる環境を作るとともに、家族が一斉に読書をする時間を設け、子どもと一緒に本を読んだり、読み聞かせを行ったりする「家読（うちどく）」の積極的な取組
○公立図書館を家族で利用する機会を持つことなど、子どもの発達段階に応じた継続的な取組
○家族で読書を通じて感じたことや考えたことを話し合ったり、お互いが読んでいる本を紹介し合ったりすることや、読書活動を通じた社会参加活動への参画を促す声がけ等

【地域の役割】
○読み聞かせ会や人形劇等の公演、地域文庫の開設など、子どもが本に親しむ様々な機会を提供する
○「地域学校協働活動」のひとつとして取り組まれている読み聞かせや図書館の環境整備、本の修理・修繕等を継続・充実させる

【地域に期待される取組】
○「教育振興運動」をはじめとした様々な 地域学校協働活動の取組による、子どもの発達段階に応じた本との豊かな出会いの創出
○ブックトーク、書評合戦（ビブリオバトル）、子ども司書、子どもコンシェルジュ等、子どもの読書への関心を高める取組の実施等

【学校等の役割】
○全ての子どもが自由に読書を楽しみ、読書の幅を広げていくことができるように適切な支援を行う
○乳幼児が絵本や物語に親しむ活動を積極的に行うとともに、保護者に対し、読み聞かせ等の大切さや意義を広く普及する

【学校等に期待される取組】
○読書の機会の拡充や図書の紹介、様々な図書に触れる機会の確保

（全校一斉の読書活動 、推薦図書コーナーの設置 、一定量の読書を奨励するなどの目標設定等）
○学校図書館の機能を計画的に利活用した 、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と、児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実
○点字図書や音声図書など、一人一人の教育的ニーズに応じた様々な図書館資料の整備等

３　「読書がとても楽しい」と感じる児童・生徒を増やすために

「いわて県民計画（2019～2028）」のアクションプランの指標の中に、「読書がとても楽しいと感じる児童・生徒の割合」が位置付けられています。これまでも、本県の児童・生徒は全国と比較しても読書好きであるとのデータがありますが、学校・家庭・地域・行政等の力で、さらに向上させていこうとするものです。

先日、花北青雲高校２年生の生徒さん１名が当センターでインターンシップを行いました。政策について考える実習の際に、「読書がとても楽しい」と感じる児童・生徒を増やすための方策について考えましたので、一部を紹介します！

○子どもが好きな小説などの本を親も読んで共有し合う！
○学級でペアになって同じ本をそれぞれ読み合って二人で感想を話し合う！
○本一冊一冊を紹介するポスターを作成する！（映画のポスターのような）
○学校で読書をする時間を確保する！
○国語の時間などに、最近のベストセラーの中から選んで深く読み進める！
○本を１０冊買ったり、借りたりすると限定のしおりや割引券がもらえるキャンペーン！
○本１冊を紹介するＣＭ（動画）を作ってみる！

生徒さんのアイディアの中にも、広報の工夫や交流の必要性、時間の設定、特典等が挙げられており、興味を持って楽しく読書をしていくためのきっかけや環境づくり等、まだまだできそうなことがあると考えさせられました！

★――――――――――――――――――――――――――――――――――――★

各種研修会の開催要項を随時掲載しています！

★――――――――――――――――――――――――――――――――――――――★

【今後の研修会等実施予定】
１２月　６日（月）　子育て・家庭教育相談担当者研Ⅰ【延期後】
　　７日（火）　地域安全防災研修会【延期後】
　１４日（火）　子育て支援活動交流研修会【延期後】
２月　３日（木）～４日（金）
　　県生涯学習推進研究発表会
　１４日（月）　子育て・家庭教育相談担当者研Ⅱ

※申し訳ありませんが、既に申し込みを締め切っているものもあります。
※開催要項・実施報告書は、当センターのＨＰ「まなびネットいわて」でご覧ください。（中段の「新着情報」または上段の「事業計画・研修講座要項」内に掲載中）
↓↓↓↓↓
http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/

※開催の有無、実施方法・内容の変更等があれば関係各所に通知します。（ＨＰでもお知らせします。）

【生涯学習電話相談「マナビィコール」】
研修会・講師情報等のお問い合わせ等は下記までお気軽にどうぞ！
当センターで行っている「学び」全般の相談ダイヤルです。
↓↓↓↓↓
http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/soudanshien/manabiikoru.html

||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||
▸ご意見・ご感想、登録・登録解除等は下記アドレスまで
⇒　E-mail；mag-manabee@pref.iwate.jp

▸生涯学習・社会教育関連情報は当センターＨＰから
⇒　http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/

▸ 当センターの情報を SNS にて配信中
【Facebook】https://www.facebook.com/manabinetiwate/
【 Twitter 】https://twitter.com/manabinetiwate Facebook・Twitter

||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||iwatemanabeemagazine||||||
発　行：岩手県立生涯学習推進センター（花巻市北湯口 2-82-13）
編　集：菊池　一洋